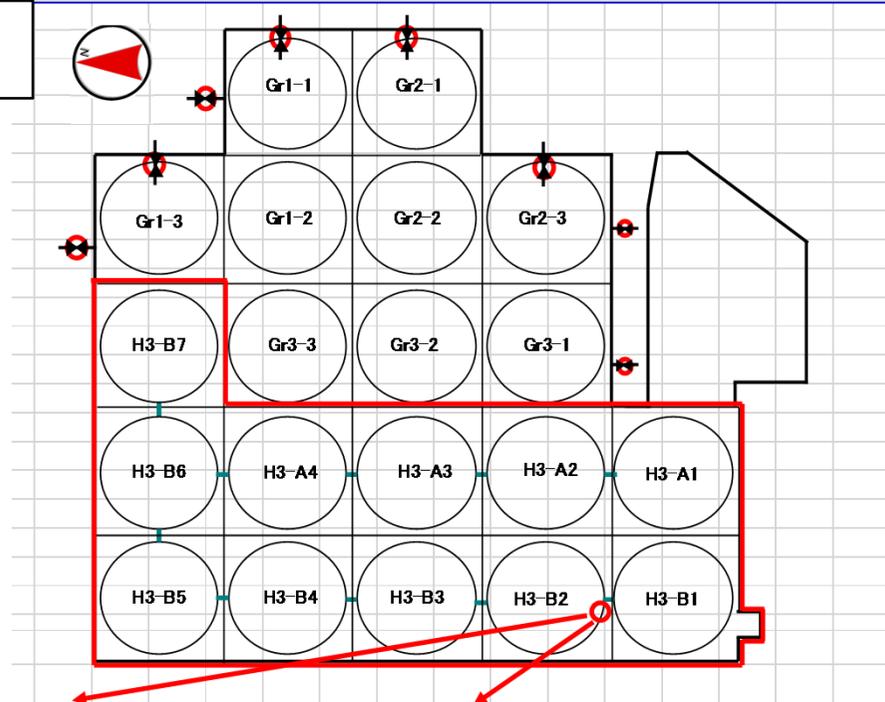


福島第一原子力発電所 H3エリアB 2タンク基礎部のにじみ発見について

H3エリア



○にじみ範囲については、約20cm×20cm
であり、にじみ発見時と比較して変化なし。
また、深さは最大で1mmであり、水の量は
約0.04リットルと推定。

○なお、当該タンクに貯蔵している水の分析結果
(2013年3月7日採取)については、全ベータ
で約 2.4×10^8 Bq/L。



H3エリアB2タンクに関するこれまで経緯

- 2013.8にフランジタンク総点検においてH3-B2タンク（RO濃縮水満水保管中）の底板外周部にホットスポット確認。
 - 念のため当該タンクを隔離し、貯蔵水を底板フランジ面程度の水位まで水抜きを実施。
 - 2015.4まで当該タンクは隔離し、空のまま保管。

- 2015.4にH3エリアRO濃縮水の多核種除去設備による処理開始。
 - 当該タンクは受払タンクに隣接した連結タンクであり、H3エリアの配置上、当該タンクを經由して後段の連結タンクの水抜きをする必要あり。
 - 4/18に連結弁を開操作し、H3エリアの多核種除去設備による処理を開始。

- 5/1のAM8時のパトロールにて、タンク底板付近ににじみを発見。
 - 4/30夕方のパトロールの際は異常なし
 - 5/1 11時頃 当該タンクと後段のタンクの連結弁を閉操作
 - 12:20 当該にじみ箇所の拡大防止処置（土嚢および吸着マットの設置）完了。
 - 14:03 H3-B2タンクに貯蔵しているRO濃縮水について、既設配管およびポンプを使用して、多核種除去設備への移送を開始。
 - ※本移送は、H3-B2タンクとB3タンクの連結弁を「閉」とし、H3-B1タンクとB2タンクを連結した状態で、RO濃縮水を移送している。
 - 15時頃 にじみ箇所にコーキング処理を実施。監視用にWebカメラを設置。
 - 引き続き、当該タンクの監視強化を行う。